



「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **118**
August
2019



運動会 (大田原キャンパス)

北島政樹先生 お別れの会

第23回あいおいニッセイ同和損保奨学生認証式

2019年度年間成績優秀賞

写真
特集

運動会、オープンキャンパス

北島政樹先生 お別れの会

7月19日
ホテルニューオータニ

2009年から7年間にわたり国際医療福祉大学学長を務め、医学部の開設をはじめ退任後も本学発展に尽力し、5月21日に77歳で急逝した北島政樹先生のお別れの会が7月19日、東京都千代田区のホテルニューオータニ「鶴の間」



で開かれた。会には、小泉純一郎元首相、福田富一栃原知事や国会議員ら政界厚生労働省・鈴木康裕医務技監ら政府関係者、欧米アジアの大学・病院教授、各国駐在大使、国内の医療関係の学会・財団、全国の大学学長、病院関係者、経済界、芸能界など各界から多数が参列し、故人の遺徳を偲んだ。

広い会場の正面に据えられ、白、紫、ピンクなど無数の花で飾られた祭壇には、大きな遺影が掲げられた。開式にあたっては、生前の様子を伝える映像が流され、黙祷が捧げられた。

その後、高木邦格国際医療福祉大学理事長、瀬戸泰之日本消化器外科学会理事長、横倉義武日本医師会会長、王貞治福岡ソフトバンクホークス会長、ハンガリー・セメルweis大学ヨセフ・シャンドール外科学教授、北野正剛大分大学学長の6人が弔辞を述べた。

高木理事長は、「最初にお目にかかったのは1996年。慶應義塾大学教授だった北島先生に、山王病院の人事のことでご相談が上がった。岳父が亡くなった際には忙しい中、最後までお見送りいただき、手を合わせていただいた」と親交を振り返った。



●高木理事長

「チーム医療・チームケア、他職種連携という言葉が根付いたのは、先生が学生教育に尽力された結果です」「医学部新設に際しては、反対意見があるなか、革新的な医学教育のため、学長として毅然たる態度で準備に取り組んでくださいました。開設できたのは先生のおかげで、開学式とともに喜んでます」と述べた。「今年の受験志願者は4千人を超え、日本のみならずアジア各国からトップの成績優秀者が集まり、おかげさまで順調に運営しています」と報告した。

さらに、「地方の医療を守ることに真剣に向き合っておられました。国際医療福祉大学病院や塩谷病院、熱海病院における医療の充実、先生のご尽力の賜物です」「附属・関連病院には先生を慕って他大学のドクターたちが多数

在籍しています。尊敬と信頼を集めておられた先生は、日本の医療を牽引されてきたばかりか、万国外科学会会長を務め、名前が冠された「Kitajima Prize」が創設されるなど、世界の外科分野に貢献されました」と紹介。「生涯現役」を貫いてきたことを顧み、来春、国際医療福祉大学成田病院がオープンすることについて「先生と喜びを分かち合いたかったですし、医学部第1期生の卒業を一緒に見届けることを当然に思っていました。あまりに突然の訃報に茫然とするばかりです」と述べた。

●瀬戸日本消化器外科学会理事長

な衝撃を受けたことを今も鮮やかに覚えてる」「先生の計り知れぬ、低侵襲手術、ロボット手術に対する情熱はただ感服するしかない。低侵襲へ向けて、大きくわが国の外科学の舵を切る事ができたのも、先生の情熱、ご尽力があつてこそだと思ふ」と医学者としての足跡を高く評価した。また、「やるべきことをやっていたら、必ずいろんなことはついてくる」と言われるなど、学問や人生についての薫陶を受けたことを紹介した。

日本医師会の横倉会長は、「我が国における医師養成や生涯教育の在り方などについて様々な提言を賜った」と感謝した。



●横倉日本医師会会長

北島副理事長が医師の臨床研修などについての報告書提出にあたり「新しいものをやろうと考えるのではなく、未来を見据えてやっていくのが私のマインドだ。今のための今ではなくて、未来のための今なのだ」と述べたことを紹介した。そのうえで、「十年余の歳月を経て、改めて読み返してみても色褪せることはない」と強調。「報告書として撒かれた種が医療界にとつてより良い方向に花開くよう、より一層の努力を重ねていく」と決意を述べた。

王福岡ソフトバンクホークス会長は、

監督だった2006年、胃癌の全摘手術を北島副理事長が腹腔鏡下で実施して成功した。「術後13年たっているが、普通の生活ができ、先生に執刀していただいてよかった」「常に健康でなければいい仕事はできない」と言われていた先生が倒れたと聞いて信じられなかった。外科医療への強い意志は後輩方に受け継がれていく。世界の医学界の発展のための先生の努力は必ず実を結んでいくでしょう」と惜しんだ。



●王福岡ソフトバンクホークス会長

公私ともに親しかったセメルweis大学のシャンドール教授は、「彼の豊富な研究業績と優れた外科医としての活動が医学教育に対する情熱へと結びつき、その活躍は今では世界中で知られている」と国際的な権威であることを讃えた。そのうえで、日本、ハンガリー、ポーランドの若い外科医たちが経験を交換する「日本・ハンガリー外科学会」を設立し、次回は来年、日本で開く準備中であることを紹介。「若い世代の外科医たちを特に気にかけておられ、



●セメルweis大学シャンドール教授

世界のだこにいてもさまざまな国の若い医師たちに囲まれていた」と思いやりの深さに敬意を表した。さらに、「私たちは1人の外科医を失っただけではない。セメルweis大学とハンガリー外科学会の名誉医学博士、ハンガリー共和国十字騎士勲章受章者を失った。そして私は1人の親友を失いました」と万感の思いを込めた。



●北野大分大学学長

最後に立つた北野大分大学学長は、優しい人柄に触れ、内視鏡手術について1991年に「この手術は必ず発展する。これから君たちのような若い人がこの分野を背負っていくことになる。私はそれまでの架け橋になるので頑張ってください」との手紙を受け取り、今でも大切にしていることを紹介した。「先生から学んだ最高の物は何気ない心配りの大切さだ」「いつどこにいても、周りの方々にお心配りされ、それが自然になんとか伝わってくるというお人柄だった。周囲の方に怒鳴ったり、不機嫌になられた様子を見たことがただの1度もない」と述べた。そのうえで、「自分で、このような立場になりたいと思っただけのものではない。そのような立場には人様がしてくる。周りの人に常に尊敬の気持ちを持って誠意をもってお付き合いするように」と諭されたことを述べた。



北島政樹副理事長 略歴



1941年8月2日、横浜市中央区生まれ。横浜市立大岡小学校、同南中学校を経て慶應義塾高等学校に進み、60年に卒業、慶應義塾大学医学部に入学し、医学の道歩み始めた。

66年3月に同大学卒業後、73年から足利赤十字病院外科部長を務め、75年に医学博士号を取得。同年からハーバード大学M.G.H.(Harvard Medical School & Massachusetts General Hospital)の外科フェローとして2年間留学した。帰国後、89年に杏林大学第一外科教授

を務め、91年に慶應義塾大学外科学教室教授に就任。99年10月に同大病院長、2001年7月から医学部長を務めた。

07年4月に国際医療福祉大学副学長・国際医療福祉大学三田病院長として本学に着任。09年7月に国際医療福祉大学学長に就任した。

10年にハンガリー国立センメルweis大学名誉医学博士、11年にはポーランド国立ヴロツワフ医科大学名誉医学博士の称号を与えられ、13年、国際消化器外科学会、名前に冠した「Kitajima Prize」が創設された。

16年4月には国際医療福祉大学副理事長に就任し、国際医療福祉大学名誉学長も務めた。一方、慶應義塾大学では名誉教授のほか医学部外科学教室刀林会理事長に就いた。

日本を代表する外科医として知られ、第100回日本外科学会会長、日本癌治療学会理事長、日本内視鏡外科学会理事長などを歴任したほか、海外でも第42回



●2005年3月 国際医療福祉大学10周年と三田病院開設祝賀会



●2010年11月 ハンガリー国立センメルweis大学名誉医学博士



●2009年7月 学長就任式



●2010年12月 留学生たちと



●2011年10月 ポーランド・ヴロツワフ医科大学名誉医学博士



●2013年4月 入学式



●2016年3月 学長退任最終講義



●2017年9月 高木理事長夫妻と欧州視察(ブタペスト)

第23回あいおいニッセイ同和損保奨学生認証式

第23回となる2019年度の国際医療福祉大学・あいおいニッセイ同和損保奨学生認証式が6月18日、東京都渋谷区のアいおいニッセイ同和損害保険株式会社本社で行われた。

式には本学から、今年度奨学生10人と大友邦学長、高橋泰赤坂心理・医療福祉マネジメン卜学部長ら7人が出席。認証を受けた学生らは「患者さんだけでなく、ご家族に寄り添える医療従事者になりたい。このご支援に恥じぬよう、残りの学生生活を真面目に丁寧を送っていく」(石川和正さん)などと、自己紹介とともにお礼の言葉を述べた。



に認証状を手渡した。また、大友学長は、「あいおいニッセイ同和損保には23年間にわたり奨学金制度を維持していただき、心から感謝します」と述べるとともに、奨学生に対し「奨学金で余裕ができるので専門的領域を深めるとともに学生生活の幅を広げられる。向上心を一歩前に進めることで、ご厚意に少しでも応えてほしい」などと激励した。

同奨学金制度はあいおいニッセイ同和損保の前身である同和火災海上保険株式会社が1997年、本学の「医療分野の人材を育成する」という趣旨に賛同して始まったもので、これまでに207人の学生が認証を受けている。

- 2019年度の奨学生は次の通り。
- ◆石川和正さん(保健医療学部 作業療法学科2年)
 - ◆細谷ももこさん(同 放射線・情報科学科2年)
 - ◆落合彩風さん(薬学部 薬学科2年)
 - ◆ZOLBAYAR SUNJIDMAAさん(同1年)
 - ◆田村美咲希さん(成田看護学部 看護学科2年)
 - ◆滝澤麻梨亜さん(成田保健医療学部 理学療法学科2年)
 - ◆吉崎友美さん(赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 心理学科2年)
 - ◆林紗穂さん(小田原保健医療学部 理学療法学科2年)
 - ◆柴田夢可さん(福岡看護学部 看護学科2年)
 - ◆富岡未来さん(福岡保健医療学部 医学検査学科2年)

トピックス

万国外科学会会長、国際消化器外科学会会長、世界最高峰の医学雑誌「New England Journal of Medicine」の編集委員などの要職を務め、英国・米国・ドイツ・イタリア・ハンガリー・ポーランド外科学会名誉会員としても幅広く活躍した。

19年5月21日午後2時28分、東京都内の病院で、心不全により逝去。享年77歳だった。

そのほかの主な学会などの活動、受賞(章)歴は次の通り。

主な学会

第11回世界内視鏡外科学会名誉会長▽第6回国際胃癌学会会長▽第3、7回国際センネルノード学会会長▽日本コンピュータ外科学会理事長▽日本創傷治療学会理事長▽万国外科学会名誉会員▽国際胃癌学会名誉会員▽日本消化器内視鏡学会名誉会員▽ヨーロッパ科学アカデミー会員▽日本ハンガリー・ポーランド外科学会会長

主な活動

日本学術会議第21期第2部副部長▽厚生労働省がん医療を専門とする医師の学習プログラム検討委員会委員長▽同省がん診療提供体制のあり方に関する検討会座長▽一般社団法人日本医師ものづくりコンゴリズム理事長▽国立研究開発法人日本医療研究開発機構(A.M.E.D.) 未来医療を実現する医療機器システム研究開発事業プログラムスーパーバイザー▽特定非営利活動法人日本から外科医がいなくなることを憂い行動する会副理事長

受賞(章)

ハンガリー共和国十字騎士勲章▽日本消化器病学会特別功労賞▽第12回日本癌治療学会中山恒明賞▽慶應義塾大学平成18(2006)年度福澤賞▽第14回日本癌学会長與又郎賞▽平成22(2010)年度公益財団法人内視鏡医学研究振興財団顕彰

医学部3年生がアーリーエクスプोजチャー

医学部は7月23〜25日、3年生を対象に、「医療プロフェッショナルリズムⅢ」の授業の一環として「アーリーエクスプोजチャー(早期体験学修)」を行った。

医学的知識がまだ浅い学生が、医学や医療介護の現場を体験することで、医学部での勉学の意義や重要性を再認識し、学修へのモチベーションを高め、医師のあるべき姿を考察するのが目的。医師や医療・介護スタッフのシャドウイング(活動を見てまねる)を行い、患者利用者や医療・介護スタッフと適切にコミュニケーションをとり、医療介護の仕組みや現状、多職種の業務を通じて医師の役割を理解することに意義がある。



●塩谷病院での体験学修

138人の学生が東京エリア79人と那須エリア59人に別れて実施。東京では三田病院、市川病院、新宿けやき園、医療法人社団晴山会の平山病院群、飛鳥晴山苑で、また那須では国際医療福祉大学病院、塩谷病院、邦友会、マロニエ苑などで体験学修に臨んだ。

実修前の7月1日と22日には、マナーと介護技術についての準備講義、実修後の29日には、それぞれの部署で経験した内容を全員でシェアする授業が行われた。

学生たちは①実修施設の職員や対象者に対する感謝と敬意②大学と実修施設の一員であるという自覚③実修施設と領域のルールの順守などに留意しながら体験学修に励んでいた。

ポーランドのヴロツワフ医科大学 医学部研修生を受け入れ

昨年3月に一般学術交流協定を締結したポーランドのヴロツワフ医科大学の学生3人が8月4日から18日の約2週間にわたって本学を訪れ、臨床観察研修を行った。

来日したのは、ナタリア・ピエツォルキエビツジさん(ポーランド国籍・女性)、カテリーナ・モロズさん(ウクライナ国籍・女性)、ナビル・サイエドさん(フィンランド国籍・男性)の3人。研修初日となった5日は東京赤坂キャンパスで大学院 赤居正美教授の講義を受けたほか、心理相談室などを見学した。その後、山王病院、山王メディカルセンター、三田病院などを視察した。



●東京赤坂キャンパスでの講義

翌日からは栃木県へ移り、国際医療福祉大学病院での研修や、県内のグループ施設見学を行った。16日には成田へ移動し、オープンキャンパスに参加。成田シミュレーションセンターなどの施設も見学した。

ヴロツワフ医科大学は1811年に設立された。アルツハイマー、コホ、エーリッヒなど著名な医師が在籍したほか、ノーベル賞受賞者十数人を輩出した。今年度から海外保健福祉事情の学生派遣先にもなっており、短期の学生・教員交流や医学部生の海外臨床実習研修先としても交流を図っている。

トピックス

「栃の実荘」新築移転で
祝賀会、内覧会を開催

4月に竣工した特別養護老人ホーム「栃の実荘」の新築移転祝賀会と内覧会が7月1日、栃木県那須塩原市井口の同荘で開かれた。

渡辺美知太郎那須塩原市長代理の田代正行同市保健福祉部長のほか、関谷暢之栃木県会議員、佐藤幹夫国際医療福祉大学病院後援会会長ら100人が出席した。国際医療福祉大学の友邦学長が「より良い福祉サービスを提供できるよう、職員一同一丸となって尽力していく」と挨拶した後、那須塩原市議会の吉成伸一議長、の乾杯で、オープンを祝った。



●プロジェクトが完成した西那須野地区

特別養護老人ホームでは、4人部屋をカーテンではなく壁で仕切ることで、ほぼ個室と同様の居室環境を実現してプライバシーを確保、エアコンも完備している。さらに、現在の介護手法の主流となりつつある、ユニット型の個別支援手法を取り入れる試みとして、20人を1ユニットと捉えて設計した。ユニットごとに食堂・リビングの共有スペースを設け、入所者間の交流が図りやすくなり、個別ケアの提供が実現できる。従来型多床室と個室ユニット型のメリットの双方を取り入れた、新しい支援手法に取り組んでいる。



●新築移転した栃の実荘

新しい「栃の実荘」は鉄骨造り2階建てで、敷地面積は5518平方メートル、延べ床面積6099平方メートル、特別養護老人ホームの入所定員102人（改築前52人、50人増）、短期入所生活介護20人（同10人、10人増）、通所介護40人（同35人、5人増）の規模に拡大した。そのほか訪問介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの機能もある。

デイサービスについては、照明も落ち着いた雰囲気とし、ゆつくりと温泉に浸かることができる。隣接した幼保連携型認定こども園「西那須野キッズハウス」と渡り廊下でつながっており、日常的に世代を超えた交流ができるようになっている。

「栃の実荘」のリニューアルオープンで、国際医療福祉大学病院新棟、西那須野キッズハウス、那須マロニエホテルと合わせ、グループが2017年から行ってきた西那須野地区約100億円のプロジェクトが完成した。

第118回
大田原
キャンパスレポート

薬学部3学生の研究成果
学会で表彰を受ける

「日本薬学会第139年会」が3月21〜23日、千葉市の幕張メッセで開催され、薬学部薬学科6年、高橋周太郎さん（物理化学分野、三浦隆史教授）が、「ドーパミンの銅還元に対するチオエーテル配位子の影響」という演題でポスター発表を行い、「学生優秀発表賞」を受賞した。また、薬学科6年の小栗也実さん（衛生化学分野、浅野哲教授）も、「かびょうパウダーは生活習慣病を予防する」という演題でポスター発表を行い、「一般学術講演ハイライト」に選ばれた。



●ポスター発表をする高橋君(右)と小栗さん(左)

さらに、5月25、26両日、東京都文京区の順天堂大学で開かれた「第29回日本サイトメトリー学会」では、薬学科6年、菅井一真さん（生体防御学分野、八木秀樹教授）が「フロサイトメトリーによる細胞傷害試験法の開発」という演題でポスター発表を行い、



●賞状と時計を贈呈された菅井君

「学術奨励賞」を受賞した。薬学部では、教育と共に、独創的かつ質の高い研究が、各研究分野で展開されている。

（薬学部准教授 加藤芳徳）

関連職種連携ワークショップ報告会と
連携実習

令和元年度の「関連職種連携ワークショップ」を7月6日、「関連職種連携実習」を同日29日から8月2日に行った。関連職種連携ワークショップは、模擬事例を用いて、問題解決型体験学習を通し、職種間連携の基礎技能を身につけるもので、6日はその成果を報告した。

午前中は、事例ごとに各教室に分かれ学習成果を発表した。最後に学生と教員で投票を行い、優秀賞を選出。優秀賞に選ばれたチームは午後の部で再度発表を行った。関連職種連携実習は、学科横断のチームを編成し、実際の病院や福祉施設で5日間の実習を行う「関連職種連携教育」の最終ステップ。国際医療福祉大学熱海病院では大田原・小田原両キャンパスの混合チームが、また国際医療福祉大学三田病院では大田原と成田キャンパスの混合チームが、キャンパスを超えての連携を図った。大田原と成田との混合チームは今年が初めてとなった。

また、今年度からの新たな試みとして、大田原キャンパスでは、地域包括を視野に入れ、基幹型支援センターでの実習を開始した。さらに、小田原キャンパスでは外部施設としては初となる箱根病院での実習がスタートした。

（教務課 江連綾菜）

北島政樹先生お別れの会

第23回あいおいニッセイ同和損保奨学生認証式

医学部3年生がアーリーエクスプージャー

ポーランドのヴロツワフ医科大学医学部生研修生を受け入れ

「栃の実荘」新築移転で祝賀会、内覧会を開催

キャンパスレポート

薬学部3学生の研究成果学会で表彰を受ける／関連職種連携ワークショップ報告会と連携実習／保護者のための就活講座を開催／第10回キッズスクール

成田 「第11回公津みらいまつり」に参加／成田キャンパス模擬患者の会、医療面接に参加／大規模災害時DVI訓練を開催／関連職種連携ワークショップ報告会

東京赤坂 東京赤坂キャンパスで初めての年間成績優秀賞表彰式／医療通訳の国際会議を開催／帰宅困難者受け入れ訓練を実施／「がんばろ」構成8大学合同シンポジウム

小田原 北條五代祭りパレード／大学教養入門で小田原を学ぶ／第49回フレッシュマンプログラム開催／本番さながらの防災訓練

福岡 学友会主催の新生歓迎会／就職オリエンテーション／初めての市民開放授業

大川 留学生別科入学式を開催／学友会主催の清掃活動に270人参加／「郷土論」を開講／福岡薬学部特別講演会

2019年度年間成績優秀賞

写真特集

運動会／オープンキャンパス

施設インフォメーション

国際医療福祉大学病院／塩谷病院／三田病院／熱海病院／市川病院／山王病院／山王メディカルセンター／国際医療福祉リハビリテーションセンター

キャンパスブラス／クラブ・サークル紹介

漕艇部(成田キャンパス)

表紙写真 5月18日の大田原キャンパス運動会

保護者のための就活講座を開催

1年生から3年生の在学生とその保護者を対象にした就活活動講座を7月13日に行い、44人が参加した。保護者に学生の就職支援体制を整えてもらう一方、関連病院への就職促進を目的として毎年開催している。

午前10時から野呂千鶴子保健医療学部長の挨拶の後、就職担当教員から「これからの大卒看護師の就活のすすめ」をテーマに新卒看護師の就職状況、就職先を選択する際のポイントについて説明した。とくに「国際医療福祉大学関連病院は、新卒看護師へのフォーマル、インフォーマルなサポート体制が充実していることで早期離職者が少なく、将来にむけたキャリア発展のための環境が充実している」と説明があった。



●成田師長による講演

第10回 キッズスクール

主催：国際医療福祉大学、大田原市、大田原市教育委員会

後援：栃木県、那須塩原市、那須塩原市教育委員会、那須町、那須町教育委員会

楽しみながら医療福祉の世界を体験する「第10回キッズスクール」を8月8日、大田原キャンパスで行い、小学生59人、中学生57人が、それぞれ4つのグループに分かれていろいろな体験をした。

小学生は、患者体験を通して体のしくみや働きを学ぶ「利用者コース」で、「盲導犬の仕事を理解しよう」のイベントに参加。デモンストラーションや体験談を通して視覚障害のある人の歩行を助ける大切なパートナーである盲導犬への理解を深めた。

中学生は、医療福祉の現場を体験しながら、さまざまな職業を学べる「従事者コース」に挑戦。「シミュレーション体験！救急患者の体の中は？」発見から治療まで〜では、心肺蘇生、超音波検査、内視鏡外科手術トレーニング、糸結び・結紮（けっさつ）体験をし、救急場面から診断・治療までの連続性を考えながら学修した。体験後には、大友邦学長から各グループの代表者を通じて参加者全員に「ヘルスケア・ジュニアリーダー（HJL）」の認定証を授与した。



●開校式で挨拶する津久井富雄市長

午後からは、各病院への見学ツアーが実施され、参加者からは「就職状況や関連施設について詳しく知ることができてよかった」と好評だった。（看護学科准教授 林圭子）

（総務課 蜂果翔子）

第16回

成田

キャンパスレポート

「第11回公津みらいまつり」に参加

キャンパス近くの公津の杜公園で5月5日、「第11回公津みらいまつり」が開催され、例年通り、本学も参加した。晴天に恵まれ、公園を中心に2000匹のこいのぼりが青空を気持ちよさそうに泳ぐなか、大勢の来場者で賑わった。

本学のテントでは、教職員が、「白衣を着て、お医者さんになりきろう！」

「骨についてのミニクイズ」「臓器パズル」「ちよつとのぞいてみませんか？」



●「臓器パズル」(左)と「骨についてのミニクイズ」(右)で楽しむ子どもたち

子どもに見える世界、高齢者に見える世界」の4つの企画を用意したところ、400人以上の家族連れが訪れた。はじめは骨の模型に恐る恐る近づいてきた子ども、クイズに答えるうちに、人体について、驚きながらも楽しそうに勉強していた。

(総務 上田哲生)

成田キャンパス模擬患者の会 医療面接に参加

医学科2年生の授業「医療面接・身体診察Ⅱ」を6月20日に行った。学生にとつては1年次の1月に行った「医療面接・身体診察Ⅰ」以来5カ月ぶりの模擬患者さんを迎えての演習になった。

模擬患者さんは原因の異なる3種類のうちのひとつを担当した。3回の事前講習会を経て本番に臨み、見事に患者役を演じた。

最後の全体講評で、模擬患者さんから、「5カ月前と比べると、医師への階段を一步步着実に上っていることを肌で感じた」との感想が聞かれた。学生は、このことばを大きな自信とするとともに、今後の学修の励みにしてほしい。



●学生へメッセージを送る模擬患者さん

●マジックミラー越しに見る模擬診察室での演習

大規模災害時DVI訓練を開催

「DVI (Disaster Victim Identification)」大規模災害時死因調査・身元確認」訓練」を6月23日、成田キャンパスで実施した。千葉県内の大学法医学機関が主催し、災害時の死因調査・身元確認の体制整備、警察や医師会、歯科医師会などの関係機関の連携を深めることが目的。

3回目の今回は、本学、千葉大学、千葉県医師会、千葉県歯科医師会、千葉県警に加え、初めて成田市などの周辺自治体も参加し、本学の学生を含め総勢97人で行った。

死因診断、身元確認、家族対応など各部署に分かれてそれぞれの役割を確認することで、多職種間の理解と連携に繋がった。

●災害用テントが展示された

●利根川が氾濫し、遺体が運び込まれたという想定で実施した

関連職種連携ワークショップ報告会

本学の特長的な教育のひとつである「関連職種連携ワークショップ」の報告会を7月6日に行った。今年から新たに医学科が加わり、6学科横断の全50グループがグループワークの学修成果を報告し、活気ある報告会になった。

午前の部の「事例内報告会」では、同じ模擬事例を扱ったグループ同士で報告を行い、学生の互選により事例代表グループを決定した。午後の部の「事例代表報告会」では、事例代表グループが再び報告し、事例代表に選ばれなかったグループはほかの事例代表グループの報告を聞き、活発な意見交換を行った。



●午後の部(事例代表チームの発表)の様子

どのグループの報告も自職種が主体的に関わることでチーム医療の展開と患者さんのQOL(生活の質)の向上をめざしたものであった。医学科が加わったことで、前年度までとは異なった視点からのアプローチが見受けられ、成田キャンパスならではの特色ある報告会となった。

(教務課 鶴沢弘貴)

第4回

東京赤坂

キャンパスレポート

東京赤坂キャンパスで初めての年間成績優秀表彰式

昨年度開設した赤坂心理医療福祉マネジメント学部の第1期生が2年生に進級した今春、初めての国際医療福祉大学年間成績優秀賞に心理学科の鈴木結実菜さんと、医療マネジメント学科の森重舞雪さんが選ばれた。

5月29日に大友邦学長、高橋泰学部長、中田光紀心理学科長、小畑洋一医療マネジメント学科長が出席し、キャンパス内の「レストラノオーヴ」で表彰式が開催された。



●表彰式の様子

受賞した2人は、大友学長から直接表彰状が渡されると緊張した様子。しかし、記念撮影を挟んで歓談のテーブルに着く頃には美味しいケーキとコーヒもあり、次第に柔らかな雰囲気になり、それぞれの学科を志したきっかけや今後の抱負を語った。

好奇心や探究心を忘れず目標に向かって学修した成果に、先生方から激励のお言葉をもらった。道標となる先輩がいらない第1期生だが、先生方や同級生との結びつきは強い。和やかな中にも「学び」の面白さと尊さを再認識し身が引き締まる表彰式となった。

(事務部 小野桂子)

医療通訳の国際会議を開催

ロンドンで開かれた「Critical Link International (CLI)」の9回目の会議「Critical Link International 9 (CLI 9)」が6月14～16日、東京赤坂キャンパスで、本学大学院医療通訳・国際医療マネジメント分野主任の押味貴之准教授が大会長となって開催された。



●挨拶をする押味准教授

世界中から医療通訳・法廷通訳・行政通訳・手話通訳などのコミュニティ通訳関係者が集まるこの会議は3年毎に英語圏で開催されてきたが、英語圏以外で開催されるのは今回が初めて。前回スコットランドのエディンバラでのCLI 8では「新時代にふさわしい通訳」がテーマだったが、今回は世界26カ国から262人の専門家が参加し、「人工知能時代のコミュニティ通訳」をテーマに活発な議論を展開した。

同時通訳の第一人者でもある鳥飼玖美子立教大学名誉教授らが基調講演を行い、2つのシンポジウム、1つのパネルディスカッション、2つのワークショップ、7つのポスター発表、75の口頭発表が行われた。

帰宅困難者受け入れ訓練を実施

6月26日、東京赤坂キャンパスで初めてとなる、帰宅困難者受け入れ訓練を実施し、教職員60人が参加した。東日本大震災の教訓を踏まえ、2013年に施行された「東京都帰宅困難者対策条例」においては、大規模災害時のために従業員向けの3日分の水や食糧等の備蓄が事業者の努力義務とされている。また、災害発生時の一斉帰宅は救急車などの緊急通行車両の妨げになるため、従業員を職場に留まらせておくことや、帰宅困難者の一時滞在施設として協力することが求められている。



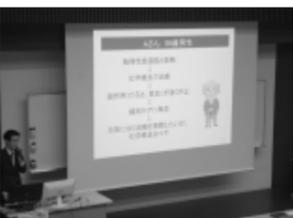
●受付で入館証に記入する様子

今回の訓練は、首都圏で地震が発生したと仮定し、職員が受付食糧配布・誘導の担当と、帰宅困難者役に分かれ、受け入れの流れを実際に行った。帰宅困難者はまず入口で入館証に必要事項を記入し、キャンパスへ入館。その後、水と食糧を受け取り、男女に分かれてそれぞれの待機場所へと向かった。

実際の災害発生時は東京赤坂キャンパスで5000人の帰宅困難者を受け入れることになっており、今回の訓練を踏まえ、よりスムーズな受け入れや、受け入れ後の適切な情報提供が課題として浮き彫りになった。また、赤坂という土地柄、言語や生活習慣の違い、外国人の受け入れも考えられるため、どのように対応していくかを改めて検討していく機会となった。(広報部 齊藤未来)

「がんプロ」構成8大学 合同シンポジウム

文部科学省の「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)』養成プラン」に採択された「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン(略称『がんプロ』)に基づき8大学で構成する運営協議会が7月26日、東京赤坂キャンパスで開催された。これに併せ、8大学の学生参加ワークショップと教員による合同シンポジウムが実施された。



●東京医科歯科大学・池田貞勝准教授

学生参加ワークショップでは、本学博士課程在籍者を含む7人の学生が、がんゲノム医療に関して、これまでの学んだことを中心に幅広いテーマによる発表を行った。発表後には、学生間で活発に意見交換が行われた。

合同シンポジウムでは、東京医科歯科大学の池田貞勝准教授をはじめ、がんゲノム医療を専門とする教員4人が、ゲノム医療や希少がんをテーマに、最新の研究成果を報告し、非常に有意義なシンポジウムとなった。

- 『がんプロ』では、次の日程で一般参加も可能なシンポジウムやワークショップを開催する予定。学修内容を深める意味でも、ぜひご参加いただきたい。
- 【今後の日程】(会場は全て東京赤坂キャンパス)
●9月8日 多職種協働市民公開シンポジウム
●10月13日 一般市民公開講座
●来年1月19日 教育ワークショップ
(事務部 石倉伸一郎)

第49回 小田原 キャンパスレポート

北條五代祭りパレード

毎年5月3日に行われる小田原市内最大級のイベント「北條五代祭り」が、今年も盛大に開催された。小田原市観光協会主催で、戦国時代に小田原城を拠点とし、5代約100年にわたってその栄華を極めた戦国大名の北条氏を称え偲ぶもの。見どころは、北條歴代城主を模した総勢約1700人も
の武者行列だ。その
行列に例年同様、小
田原保健医療学部の
学生15人が参加した。
学生たちは、2代
北條氏綱成を小田原
高等学校の生徒たち
とともに編成。甲冑
を身にまとい、青空
が広がる中、沿道の
約23万人(主催者発表)の観光客から声
援を受けながら、笑顔で堂々とパレード
した。



●武者隊市中パレードに参加

小田原市出身で小田原ふるさと大使の
俳優、合田雅吏さんが3年連続で初代北
條早雲に、また、NHKの大河ドラマ「真
田丸」で北条氏政を演じた人気俳優の高
嶋政伸さんが役そのままの4代北條氏政
に扮して武者行列に参加し、祭りを盛り
上げた。
(事務部 三浦星夢)

大学教養入門で小田原を学ぶ

1年生の必修科目として4月8日から
7月9日の計14回にわたり、大学教養
入門の講義を行った。「人間中心の大学」
という大学の理念に基づいた学生生活の
ため、大学教育の本質、医療人としての
あり方を理解し、「社会に開かれた大学」
の学生として、小田原市の市政や産業に
関わる物事を理
解するもの。



●かまぼこの歴史と製造工程を学ぶ

医療人としての
心構えや、医
療教育で必要と
なる科学知識の
基礎、文章、レ
ポートの書き方、
接遇などについ
て学ぶとともに、
今年度は「重症
心身障害児の理解」や「ボランティア活
動について」のテーマも加え、より具体
的かつ身近な内容を組み込んで展開した。
小田原についての知識・理解を深める
ため、小田原市の歴史とこれからの市政
について、加藤憲一(小田原市長)の講演を
聞いた。また、小田原蒲鉾組合の協力で、
かまぼこの歴史やその製造工程、地域の
特性を学び、かまぼこの試食も行い、地
域の産業を学んだ。
学生はこれから4年間を過ごす小田原
をより身近に感じ、また医療人としてど
のように地域に貢献できるかを自覚する
機会になった。
(学務課 稲葉博之)

第49回 フレッシュマンプログラム開催

1年生を対象にした「フレッシュマンプロ
ラム」を5月18日に開催し、学科体験と
小田原散策の2つのプログラムを行った。
午前は本校舎で「将来の連携のために、
他学科の役割を知ろう」というテーマの
もと、看護、理学療法、作業療法3学科
の体験を実施した。他職種を理解できる
プログラムを設定し、自宅で簡単にでき
る清潔ケア(看護学科)
VICONを用いた
歩き方チェック(理学
療法学科)マアクリル
毛糸たわし作り(作業
療法学科)など11テ
ーマが行われた。参加し
た学生たちは、「他学科
の職種が理解できた」「学
科を越えた友人ができ
た」と実感できたようだ。
午後は3学科混合の
21グループに分かれ、小田原の歴史や文
化を学ぶ「清閑亭小田原めぐり」を実施し
た。「小田原まちづくり応援団」のボラン
ティアの方々や2年生から各施設の説明
を聞き、小田原の歴史を学びながら小田
原市内を散策した。



●藤棚の下でガイドの方から小田原の歴史を学ぶ

散策では、「清閑亭」「城址公園藤棚」「う
しろう」などを巡るスタンラリーが行
われ、学友会主催で行った抽選会では、
「清閑亭」で販売されているコーヒーの
無料券をはじめ、様々な景品が用意され、
参加した学生は、楽しい時間を過ごした。
(学務課 鳥海文花)

本番さながらの防災訓練

毎年前期に行っている1年生を対象に
した防災訓練を6月12日に実施した。
「2限の授業終了間際に、城内校舎2
階教員研究室エリアの給湯室付近で出火
した」との想定で、ほとんどの学生が1
階と3階で授業を受けている中、本番さ
ながらに非常ベルが鳴り響いた。



●避難訓練の様子

出火元では近く
の屋内消火栓のホ
ースを実際に火元
まで伸ばし、放水
はしないものの、
消火活動訓練を行
った。まず避難場所
にいた数人の学生が非常ベルを聞いて
直ちに避難を開始。授業中だった学生た
ちは教室から教員の誘導で校舎内の階段
と普段使用しない屋外の非常階段を使っ
て速やかに移動した。
避難場所の体育館では学科別、学籍番
号順に並ぶよう各学科の学生防災委員が
指示し、教員が点呼を取り安否確認が完
了した。非常ベルが鳴り出してから避難
完了まで9分。防災連絡を受けた本校舎
から応援部隊の到着までは12分だった。
小田原キャンパスは本校舎と城内校舎
に分かれているため、一方の校舎で発生
するアクシデントに双方で対応すること
を想定した訓練も必要になる。普段から
非常事態に対する意識を持ちキャンパス
をあげて被害を最小限に食い止める努力
を続けていきたい。
(事務部 伊能理恵)

第41回 福岡 キャンパスレポート

学友会主催の新生歓迎会

学友会主催の新生歓迎会を4月18
日に開催した。
入学したばかりの新生同士が交流を
深め、大学
の雰囲気や
楽しさを知
ってもらう
ことが目的。
先輩後輩間
の交流の機
会を設ける
のと同時に、
学友会の活
動を知って
もらうこと
もめざして
いる。



ダンスサ
ークルによ
るダンス披
露や軽音楽
部による演
奏披露があ
り、とても
盛り上がり
がかった。
軽食を囲み
ながらいろ
いろな学生

就職オリエンテーション

新年度が始まって間もない4月8日、
福岡看護学部4年生(8期生)97人に
対し、第3回就職オリエンテーション
を行った。

今回の目的は、就職試験に対する基
本的知識を得るとともに、社会人とし
ての基礎的能力を自覚し、就職活動に
活用すること。近年、就職試験の日程
が早まっており、県内での就職が学生
の希望に沿えないことも多くなってい
るため、就職活動が始まる前に、例年
より早めに開催した。就職活動の基本
的知識と事務手続き説明の後、卒業生
との交流会を行った。

交流会では、5人の卒業生(高邦会グ
ループ病院就職者3人、グループ外病院
2人)が、所属先の病院説明や就業状況
をプレゼンテーションした後、グルー
プに分かれて、自由に座談会を行った。
卒業生は、1期生から6期生で、ベテ
ランから2〜3年目の業務にも慣れてき
た先輩たち。自信をもって病院の特徴や
業務内容を話すその姿は頼もしく、学生
も興味深く話を聞いていた。座談会では、
職場の雰囲気や生活について、国家試験

と交流ができ、新生同士の交流も深め
てもらえたのではないかとと思う。これか
らまた新しいイベントを検討しているた
め、多くの学生にぜひ参加してもらいた
い。
(第10期学友会執行部 佐藤亜美)

初めての市民開放授業

福岡キャンパスで初めての「市民開放
授業」を6月29日に開催した。

本学の基本理念のひとつである「社
会に開かれた大学」を推進する取り組
みのひとつ
で、普段本
学の学生が
受けている
授業を地域
の方々にも
体験し、生
涯学習のひ
とつとして
役立ててい
ただくこと
を目的に実
施している。
第1回は、赤坂心理・医療福祉マネ
ジメント学部の中田光紀心理学科長が「幸
福感を高めるための心の使い方」ポジ
ティブ・サイコロジー」と題して講
義を行った。世界幸福度ランキングな



●授業を行う中田学科長

どの世界統計を交えて、幸福感を高め
る要因を4つの視点からとらえ、幸福
感が健康や遺伝子発現にも影響してい
ることを紹介。幸せは考え方や心の持
ちようではなく「行動」が決定してい
るのだということ、時おり笑いを取
り入れながら話した。
会場を埋めた約200人の学生や地域
の方々熱心に耳を傾けていた。
(学務課 水洗朋美)



●熱心に話を聞く参加者たち

大川

第55回
キャンパスレポート

留学生別科入学式を開催

今年開設された「大川キャンパス 留学生別科」の入学式が7月1日に行われ、外須美夫副学長、工藤祥学部長、表昭浩別科委員長、濱本邦洋国際交流委員長、花岡公一専務理事、留学生別科教員関係職員が新入生を祝福した。

留学生別科は、進学をめざす留学生のための日本語教育を目的にしたもので、本学では大田原キャンパス、成田キャンパスに次いで3つ目。



●留学生別科集合写真

今回入学した留学生4人(男性1人、女性3人)は、全員ミャンマー籍で、外国人介護福祉士養成のため新設された「介護福祉士特別奨学金」の奨学生として来日した。年度末まで大川キャンパスで日本語を習得したのち、近隣の大川看護福祉専門学校介護福祉学科に進学し、将来は介護福祉士としてグループ医療福祉施設に勤務する予定だ。

入学式は終始和やかな雰囲気の中執行行われた。外副学長が「皆さんは明確な目標を持って来日した。12月の日本語能力試験の結果が専門学校進学要件となるので、良い結果が出るよう勉学に励んでほしい」と激励した。

学生会主催の清掃活動に270人参加

初夏の日差しに肌も汗ばむ好天に恵まれた6月21日、学生が組織する「学生会」主催で「令和元年度清掃活動」を行った。この清掃活動は、学生による地域貢献の一環として、大川キャンパスが開学以来続けている活動のひとつだ。



●回収したごみを運ぶ学生たち



●ごみを拾う学生たち

「郷土論」を開講

今年度も1年生を対象とした「郷土論大川学」を、昨年度に引き続き4月から7月にかけて8回開講した。福岡県大川市の発展を担う方々から大川市の歴史と文化、産業の成り立ちを聞くことで、学生が大川市の魅力を理解するとともに、現在抱えている問題を認識し、社会人として必要な幅広い教養や視野を身につけることを狙っている。

第1回の4月19日は、倉重良一大川市長に大川市の歴史と産業の成り立ちについて講義いただいた。

家具の街である大川市は筑後川の河口に位置していることで船大工が盛んになり、後の家具工業の発展につながったことが説明された。また、一時期厳しかった家具産業も「職人MAD E大川家具」としてのブランド化や、ネットで評判となった「ネコ家具」など新しい取り組みにより再び脚光を浴びつつある現状を聞いた。

学生からは「もつと大川市のことを知りたくなった」といった前向きな感想が寄せられた。これを機会に学生には、大川市への理解を深め、この地域で学んだことを次年度

の海外研修などで積極的に発信してほしいと願っている。また、地域との交流に積極的に取り組み、学生の若い力が大川市のまちづくりや、活性化につながることを期待したい。

福岡薬学部特別講演会

7月6日佐賀、7日鹿児島、13日沖縄、15日大分の日程で、「ミニオープンキャンパス&特別講演会」を実施した。特別講演会の講師は武田弘志福岡薬学部長(予定)。「薬学教育のビジョンとイノベーション」と題し、日本の教育の歴史や本学の薬学教育のイノベーションについて講演した。会場には多くの高校生、保護者が訪れ、講演中は熱心にメモを取る参加者が多く見られた。



●講演を行う武田福岡薬学部長(予定)

今後、地方で実施する薬学部特別講演会は、宮崎、長崎、山口、熊本と続いていく。各地で福岡薬学部の魅力を発信していきたい。(入試学生募集課 井上雅博)

2019年度年間成績優秀賞

2019年度年間成績優秀賞受賞者が決定し、各キャンパスで表彰式・昼食会を開催した。年間成績優秀賞は、各学科の2年生以上のうち、学業成績が優秀で人品の優れた学生を顕彰し、副賞として奨学金が授与されるもの。今年度は、2018年4月に開設した東京赤坂キャンパスの1期生2人を含め、6キャンパスで73人が受賞した。



●大田原キャンパス 年間成績優秀賞表彰式



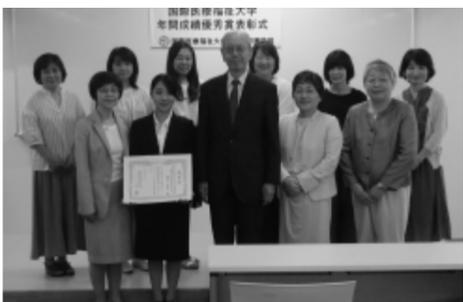
●東京赤坂キャンパス 年間成績優秀賞表彰式



●成田キャンパス 年間成績優秀賞表彰式



●小田原キャンパス 年間成績優秀賞受賞者昼食会



●福岡キャンパス 年間成績優秀賞表彰式



●大川キャンパス 年間成績優秀賞表彰式



大田原キャンパス			
保健医療学部	看護学科	2年 日下 結稀	3年 安保 春香
理学療法学科	4年 齋藤 梨沙	2年 宮前 瑠香	3年 小松 直哉
作業療法学科	4年 鈴木 直哉	2年 松崎 未来	3年 長嶺 美月
言語聴覚学科	4年 村上 瑞希	2年 安納 英里	3年 関 あゆみ
視機能療法学科	4年 伊藤 千容	2年 熊井 理子	3年 熊井 理子
放射線・情報科学科	4年 小林 智美	2年 森 美咲	3年 赤平 智菜
医療福祉・マネジメント学科	4年 中川 もも乃	2年 室越 宏美	3年 竹澤 翔摩
薬学科	4年 藤平 ほのか	2年 熊田 知明	3年 青嶋 菜実
	5年 友香 菜実	4年 熊田 菜実	5年 伴野 友香
	6年 藤平 ほのか		

小田原キャンパス			
看護学科	2年 越田 凜	3年 西郷 徹	4年 高橋 美春
理学療法学科	2年 林 紗穂	3年 中村 祐太	4年 関根 郁美
作業療法学科	2年 早川 佳那子	3年 山崎 せんり	4年 千葉 絵里香

東京赤坂キャンパス			
心理学科	2年 鈴木 結実菜	2年 森重 舞雪	

大川キャンパス			
看護学科	2年 横田 菜奈	3年 岸 みなみ	4年 眞田 莉瑚
理学療法学科	2年 柿本 渚帆	3年 今鶴 元憲	4年 村山 俊介
作業療法学科	2年 幸山 千紘	3年 原 梨紗	4年 笠 柊
言語聴覚学科	2年 久保田 遥香	3年 宮崎 莉帆	4年 神村 佳梧
医学検査学科	2年 川原 健太郎	3年 川村 あみ	4年 岩本 礼奈

Sports Festivals

各キャンパスで 運動会を開催

Otawara Campus

写真特集 運動会

写真特集 運動会

- 小田原キャンパスは11月に開催予定。
- 大川キャンパスは悪天候のため中止。

Fukuoka Campus

福岡キャンパス

5月18日に百道地区大学運動会を行った。今年度より、福岡国際医療福祉大学の1年生と国際医療福祉大学福岡看護学部の1年生との合同運動会となった。当日はあいにくの雨で体育館での実施となったが、2大学4学科で混合のチームを編成し、綱引きやリレー、障害物競争などの競技を行った。応援合戦では、迫力のあるパフォーマンスが披露され、会場は大盛り上がりとなった。運動会が行われる以前は、全く面識がなかった学生同士が、共に競技を行っていくにつれて、笑顔で応援し合う姿が見られ、絆が深まっていくのを感じた。他学科との交流はとも興味深く、有意義な時間を過ごすことができた。



●応援合戦



●新競技「ぞうきんリレー」



●大縄飛び



●綱引き

Narita Campus

成田キャンパス

5月19日、時折青空がのぞく天候のもと、体育館と多目的グラウンドで第4回運動会を開催した。今年も赤・白・青・緑の4チームが、綱引き、ドッジボール、玉入れ、大縄跳び、バブルボールゲーム、リレーで得点を競った。成田キャンパスの運動会の特長は、学科混合のチーム構成。それぞれのチームリーダーのもと、すぐに一致団結するところは、「チーム医療・チームケア」を担う専門職を養成する本学の教育方針にも合致している。



●バブルボールゲーム



●玉入れ

5月18日、大田原キャンパスで第24回運動会が開催された。新しい時代になって初めての運動会、学生は気合を入れて本番に臨んだ。熱中症対策もあり、時間を短縮しての実施となったが、天気にも恵まれ、練習の成果を遺憾なく発揮することができた。競技の花形、学科対抗リレーでは、医療福祉・マネジメント学科が圧倒的な走りを見せ、見事1位を獲得した。競技部門では、理学療法学科が優勝、応援合戦では、看護学科が圧巻の演技で優勝した。



●長縄



●綱引き



●応援合戦



●応援合戦



●応援合戦

各キャンパスで夏のオープンキャンパスを開催

小田原 Odawara Campus



●小田原保健医療学部紹介



●学生Cafe



●学科体験(理学療法)



●学科体験(作業療法)

小田原キャンパスは8月1日、4日、10日に開催。黒澤和生学部長による「小田原保健医療学部紹介」をはじめ、「入試や保護者対象ガイダンス」などガイダンス系のプログラムや、小田原の地元色を盛り込んだ「小田原で学ぶ」シリーズを開催。猛暑の中、多くの参加者が訪れ、特に学生のBGMでは終了時刻を過ぎても多くの参加者が賑わっていた。

福岡 Fukuoka Campus



●入試対策講座



●個別相談



●体験コーナーのPRをする学生たち

福岡キャンパスは7月28日、8月18日に開催。「看護教員に聞いてみよう」「模擬講義・体験コーナー」「入試対策講座」などのプログラムで構成。来場者は楽しそうに在学生と話していた。

大川 Okawa Campus



●海外研修報告展示



●学生による学科紹介



●病院見学ツアー



●福岡薬学部個別相談

大川キャンパスは8月3日、18日に開催。7月21日は大雨のため中止となったが、近くまで来ていた方などが資料だけでも欲しいと悪天候の中来場されたため、急遽入試ガイダンスや対策講座などできる限りの対応を行った。8月3日は薬学プログラムも同時開催し、多くの来場者で賑わった。隣接する高木病院を見学する「病院見学ツアー」や「入試バーチャル体験」&「入試対策講座(英語)」などのプログラムも実施した。

Otawara Campus 大田原



●放射線・情報科学科体験



●ガクセイトーク



●CAFE de IUHW



●オープニングプログラム



●総合受付

大田原キャンパスでは7月28日、31日、8月17日に開催。「学科別ガイダンス」や「AO/推薦入試対策講座」、「これから始める小論文対策」などの企画が多くの参加者を集めた。また、在学生の本音が聞ける「ガクセイトーク」も大人気だった。3月、6月に開催したオープンキャンパスとあわせて、参加者は4千人を超えた。

Narita Campus 成田



●学科体験(医学検査学科)



●学生が装飾した大階段に向かう来場者



●キャンパスライフ紹介



●入試英語対策講座

成田キャンパスでは8月4日、18日に成田看護学部、成田保健医療学部、8月17日に医学部のオープンキャンパスを開催。「入試英語対策講座」では、教員が本学の英語の過去問を解説し、対策を伝授した。来年4月に開設予定(設置届出書類提出中)の放射線・情報科学科の説明会では、学科長予定者によるガイダンスに加えて、大田原キャンパスの放射線・情報科学科がPR動画の放映とポスター展示を行い、診療放射線技師をめざす学修の一端を紹介した。

Tokyo Akasaka Campus 東京赤坂



●キャリアガイダンス



●医療マネジメント学科 学科体験



●大学院オリエンテーション



●心理学科 カフェ・赤坂

東京赤坂キャンパスは7月7日、8月4日、18日に開催。学科紹介や入試説明を行う「総合ガイダンス」から始まり、「模擬授業」や「カフェ・赤坂(学生カフェ)」などを実施。和田秀樹教授による「特別講演」や「入試対策講座」、「キャリアガイダンス」など、毎回異なるイベントも行い、参加者も熱心に耳を傾けていた。また、8月4日は初めて大学院オープンキャンパスも同時開催した。

写真特集 オープンキャンパス ●小田原 ●福岡 ●大川

写真特集 オープンキャンパス ●大田原 ●成田 ●東京赤坂



国際医療福祉大学病院

特別講演会

「外科の最新治療」がんや血管の病気」

九州大学主幹教授で日本外科学会理事長を務める森正樹同大学大学院消化器・総合外科教授を迎え、国際医療福祉大学病院特別講演会「外科の最新治療」がんや血管の病気」を7月6日に開催し、309人の一般市民が来場した。

冒頭、鈴木裕当院副院長が主催者挨拶をし、森教授を紹介。大腸がんの診断と治療に関する最新の方法をめぐる講演を行った。



●講演会の様子

続いて、国際医療福祉大学医学部の松本拓也血管外科学主任教授が講演、「血管内のしなやかな物質が失われると老化していく。禁煙はもちろん、ストレスが加わるような環境は避けてください」と呼びかけた。

鈴木副院長は「ロボット手術の現状と展望」と題して手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた手術の特性と今後の展開について講演。ダ・ヴィンチ手術の保険適用範囲が広がり、当院では胃がんの手術にダ・ヴィンチを使用しても保険適用となることを紹介した。

（総務課 平野幸宏）

国際医療福祉大学塩谷病院

2019年度

新入職員リフレッシュ研修

「2019年新入職員リフレッシュ研修」を6月14、15両日、那須セミナーハウスで1泊2日の日程で行った。

参加したのは、看護部18人、薬剤部1人、リハビリテーション室11人、放射線室2人、検査室1人、栄養課1人、事務部8人の計42人。初日は別府美知子チーフインストラクターの「仕事の基礎力強化について」と題する研修の後、ドッジボール、大縄跳びで汗を流し、夜は野外でのバーベキューで交流を深めた。病院幹部や先輩方も参加して大いに盛り上がった。



●別府チーフインストラクターによる研修

2日目は、グループワークでチーム一丸となつて課題を解決する実習のほか、コミュニケーションのあり方について学んだ。また、自分の出身校の後輩への近況報告のため、「先輩からのメッセージ」カードを作成した。最後に入職後2カ月間を振り返り、「半年後・一年後の私」と題し、今後の目標と達成するための行動計画を1人ずつ発表した。

この宿泊研修で、これまで話す機会がなかった他職種の同期の人たちとグループワークやスポーツを通して触れ合うことができ、心身ともにリフレッシュできた有意義な2日間となった。



●新入職員全員による「令和??」の人文字

（総務・人事課 荒巻一恵）

国際医療福祉大学三田病院

木下看護師に麻布消防署から感謝状が贈られる

街頭に倒れていた人に心肺蘇生を行い救助した功績で、整形外科外来の木下三智看護師に7月29日、麻布消防署長から感謝状が贈られた。

木下看護師は4月5日午後、東京都港区の麻布十番交差点で倒れた人に遭遇し、心肺蘇生を行った。瀬崎幸吾署長によると、木下看護師は周囲にいた方々に積極的に声をかけ、自動体外式除細動器（AED）や救急車の手配を要請、心臓マッサージなど救命活動を率先して行った。そのおかげで倒れた方は一命を取り留めることができたという。



●授与の様子、中央が木下看護師

授与式には山田芳嗣病院長をはじめ、石井賢副院長、村井弘之副院長、小松崎知子看護部長も出席し、木下看護師の行為を称えた。山田病院長は、「今回の感謝状授与が三田病院スタッフ全員の励みになる。今後のスタッフの行いにも期待していきたい」と話した。



●贈られた感謝状を手にする木下看護師、左は瀬崎署長

（総務課 金澤仁緒子）

国際医療福祉大学熱海病院

2019年度

新入職員リフレッシュ研修

毎年恒例の新入職員のリフレッシュ研修を7月7日、神奈川県小田原市の海辺にあるキャンプ場「なみのこ村」で行った。

この研修は、その年のすべての新入職員を対象にバーベキューを行い、親睦を深めるもの。横山直司看護部長の挨拶と乾杯でスタートし、当日参加している先輩職員や同期の職員同士で交流を深め、スイカ割りを楽しんだ。



●充実した研修を終え、全員で記念撮影

悪天候続きだったのが、雨がやみ、相模湾からのさわやかな海風を受ける中、職種や部署が違う仲間たちから刺激を受けるとともに、4月からの社会人生活での苦労や、悩み、喜びなどを分かち合った。同期ではあるが、4月の入職後研修以来、久々に顔を合わせる仲間もいて、入職したころを思い出したようだった。初心を忘れず、また同期の絆に支えられ、これから大きく羽ばたくための息抜きとなる1日になった。

（総務課 中原正実）

国際医療福祉大学市川病院

第5回メディカルセミナー

「たばこや大気汚染が原因となる肺の病気」

「第5回メディカルセミナー」を6月8日、市川グランドホテルで開催し、134人が来場した。呼吸器内科の津島健司医師（医学部呼吸器内科学主任教授）が講師を務め、「たばこや大気汚染が原因となる肺の病気」と題して講演を行った。

講演開始前には、簡易肺機能検査機（スパイロメーター）を使って来場者の肺年齢を調べ、コーナーが設置され、順番待ちができるほど盛況だった。津島医師も自らスパイロメーターで来場者の肺年齢測定を行った。



●講演する津島健司医師

講演は肺の役割や働き、説明から始まり、中心テーマの慢性閉塞性肺疾患（COPD）と間質性肺炎について、原因や診断方法、症例、治療方法をわかりやすく説明した。質疑応答では、来場者から多くの質問があり、津島医師がそれぞれ丁寧に答えた。

引き続き、善田督史理学療法士が「呼吸筋ストレッチ体操」を紹介。来場者の皆さんは熱心に取り組んでいた。講演を聞いた中には、「津島医師を外来受診したい」という声が多数あった。

会場はJR市川駅の近くで、近隣からの来場者が多く、市川市中心部での当院認知を高められたようだ。

（総務人事課 細田幸生）

山王病院

花井より子看護部長が

瑞宝単光章を受章

令和元（2019）年春の叙勲で、当院の花井より子看護部長が瑞宝単光章を受章した。

花井部長は昨年4月に独立行政法人国立病院機構新潟病院から当院の看護部長に着任した。新潟病院では、長く看護部長を務め、現場における患者看護及び看護管理に尽力した。



●受賞式での花井看護部長

受章にあたり花井看護部長は、「このたび、こうした名誉ある章を受章でき、これまでの支えてくださった職場の皆様、ならびに、看護師という仕事を長年、健康に続けることができる丈夫な身体に産んでくれた親があつてのことであり、皆さまに心から感謝申し上げます」と話している。

同章は、「国及び地方公共団体の公務」または「公共的な業務」に長年従事して功労を重ね、成績を挙げた者に贈られる。今年、厚生労働省の関連では、492人が受章した。

（総務課 山本悦子）

山王メディカルセンター

リウマチ・痛風・膠原病センターを

開設／山中寿センター長が着任

山中寿医師（国際医療福祉大学医学部教授・山王メディカルセンター副院長）をセンター長とするリウマチ・痛風・膠原病センターを今年5月に開設した。



●山中寿センター長

山中教授は前東京女子医科大学膠原病リウマチ内科学講座教授、講座主任で、長年にわたり、「身近な難病」である関節リウマチと「元氣だけれども健康でない人の病気」である痛風の診療と研究を一貫して行い、この2疾患の診療ガイドライン作成の責任者を務めた。

山王病院では従来、整形外科／リウマチ科とリウマチ・膠原病内科とが連携し、内科・整形外科の両側面からリウマチの治療を行ってきた。このたび、山王メディカルセンターに同センターを開設したことで、今後は、さらに充実した体制となり、今日最も身近な難病とされるリウマチ・痛風・膠原病の集学的な治療が可能となった。

（山王病院 総務課 山本悦子）

国際医療福祉リハビリテーションセンター

ボランティアセンター

「2019第10回丘の上コンサート」

大田原キャンパス内校舎北側の丘で、当センター主催の「第10回丘の上コンサート」を開催した。今年も、国際医療福祉大学吹奏楽部に加え、初めてJAZZ研究部も参加した。

雨上がりの緑あざやかな丘に、JAZZ研のメンバー25人による馴染み深いジャズのナンバーが流れ、観客として訪れた施設の皆さんとボランティアが一体となり、素敵なひと時を楽しんだ。



しかし、途中で小雨が降り始め、残念ながら施設の方々は大急ぎで戻った。その後、「おたわら風花苑」の交流ホールに会場を移し、付き添いボランティアの「社会福祉研究部あじさい」「ボランティアグループかざはな」の学生と地域ボランティア「いつてみつ」のメンバーを前に吹奏楽部が演奏し、恒例の演目「ふるさと」で演奏プログラムを締めくくった。

最後に、総勢100人を超えるボランティアが全員そろって記念撮影を行い、「連日の活動は無事終了した。施設の皆さん、ボランティアや参加してくれたすべての方々に感謝の1日だった。」

（ボランティアセンター 村山絹子）



漕艇部 (成田キャンパス)

「3位、国際医療福祉大学。3分59秒87!」。レース結果を伝えるアナウンスが響き渡ると、試合後の艇の処理をしていたクルーの手が止まり、握手したり、抱き合ったり…。満面の笑みが広がった。

千葉県香取市の小見川漕艇場で7月20日に行われた第74回国民体育大会関東ブロック大会ボート競技。「成年女子舵手付きクワドルプル予選B組」(1000㍓)に千葉県代表として出場した漕艇部は、東京都代表の明治安田生命と群馬県選抜に敗れたが、創部以来の目標の4分を切り、感激に浸った。4人がそれぞれ左右2本のオールを握り、コックスの指示で漕ぐ競技。



この後行われた敗者復活戦でも4艇中最下位だったものの、記録を3分58秒10とさらに伸ばした。

成田キャンパスの医学部生を中心とした漕艇部は、昨年2月に10人ほどが集まって月1回、埼玉県戸田市の戸田漕艇場などでナックル競技を体験するサークルとしてスタートした。2カ月後には、東日本医科学学生総合体育大会(東医体)などの公式試合に出るため、部活部門を創設し、活動を重ねている。

現在の部員数は男女合わせて約20人。今回の種目のほか、男子は舵手付きフォアやシングルスカルの選手がいる。練習は週4回。男子は午前3時、女子は午前4時に小見川漕艇場に集まり、7時までボートを漕ぎ、8時20分には約40㍓離れた

成田キャンパスに登校し、授業を受ける。体力的にはかなりきつそうだが、部員たちはボートを漕ぐことを心から楽しみ、文武両道を体現している。

部員のほとんどは大学に入ってから初めてオールに触った人たち。「強い他大学の選手たちも入学してから始めた人が多い。私たちにもできるはず」。上級生や指導者がいない中、ボートの歴史が長い他大学と一緒に練習や合宿をするなど、試行錯誤を繰り返している。



部長の長野友香さん(医学科3年)に聞くと、「練習場所が遠く、電車も不便でレンタカーを使い、交通費がかさむ」「忙しく厳しいカリキュラムの中、練習日程の確保が難しい」「陸からのビデオ撮影が進歩には不可欠なので、陸上マネージャーがいてくれれば」と話す。「大学スポーツのボートをできるチャンスは今しかない。興味ある人、少しでも応援してくれる人が1日でも来てくれると嬉しい」と部員募集に余念がない。この試合で監督を務めた小池朔太郎さん(医学科3年)は「4年になるとキャンパスから遠く離れた附属病院での臨床実習が増える。そうした中でどうやって活動を続けていくかが課題」という。

部員の悩みは多いが、長野さんは「目標は東医体優勝、医療系レガッタで表彰台」と言い切る。将来の夢は「私たちが6年生になったら、成田キャンパスと漕艇部主催で学生・教職員が参加する運動会のような学内レガッタを開きたい」。クルーたちの瞳は輝いている。

(東京広報部 対馬好一)

広報誌 IUHW 118号 発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
〔成田キャンパス〕
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701
〔東京赤坂キャンパス〕
東京都港区赤坂4-1-26 ☎03-5574-3900
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4(1号館) ☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
編集：広報部 ☎03-5574-3828
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

ホームページでもご覧いただけます。
<https://www.iuhw.ac.jp/>

©国際医療福祉大学2019 Printed in Japan 禁無断転載・複写